天明三癸卯年　　肥熊本

歳旦

ゆるを積りと詠れし何庵の
心緒に今年東貞自然の初春を
ほきあへしく

蓬くぬ誓ひの山や初かすみ　寥之
此宿とおもふさうへは初日影　万平
そよや春風新しおし薫錺り　鶴二
初市や門名〳〵の紋暖簾　曲盡
白ふ東れ癖かとろりと屠蘇の醉　文雪
青柳や折から梅は春へ合を　柳塢
よき日に先を来たる大吉書　桃里
七草や膝まくらのは志川かりと　詞嵘
来追や日はさゆきれ遠ほる　雨后
あらたまる氣に鳴ちあしもの春　指月
初鶏やちらしぬかうち起く床り　赤庭
長はやりありのまゝなる四方の春　雲郭
うれしくもちんと構へて新年に　濤和
松の内かうやむかふところは恵方棚　梅丈
おほ〳〵く宝といふて初荷かな　朔庖
よみくるふしさ初にあるる店おろし　化粧
京橋
初礼やおとるれたるおもてぬめり　梅素
若草の山やちらしる氣から流り初　扇羽

市あると[illegible]
[illegible]

氣のたへは年ほと外の初日影　菊守